1　骨髄系細胞の細胞質に見られるのはどれか。**2つ選べ**。

a　デーレ小体
b　好塩基斑点
c　アウエル小体
d　ハインツ小体
e　ハウエル・ジョリー小体

2　前脛骨筋、長母趾伸筋、長短腓骨筋の筋力は低下しているが、腓腹筋と後脛骨筋の筋力は正常である。

障害されている末梢神経はどれか。

a　総腓骨神経
b　腓腹神経
c　坐骨神経
d　脛骨神経
e　大腿神経

3　56歳の女性。意識障害を主訴に救急搬送された。疼痛刺激にて開眼せず発声はうなり声のみ。指示には従わず強い疼痛刺激で痛みの部位へ手を持っていく動作あり。

Glasgow Coma Scale は何点か。

a　5点
b　6点
c　7点
d　8点
e　9点

4　腹部腫瘤を触知する下部消化管疾患はどれか。

a　腸結核
b　偽膜性腸炎
c　潰瘍性大腸炎
d　直腸カルチノイド
e　腸管悪性リンパ腫

5　寝返りはできるが、お座りのできない6か月の乳児への対応で適切なのはどれか。

a　筋電図
b　頭部CT
c　経過観察
d　理学療法
e　股関節エックス線撮影

6　一時的塞栓物質はどれか。

a　金属コイル
b　ゼラチンスポンジ
c　ヒストアクリル（N-butylcyanoacrylate;NBCA）
d　PVA（polyvinyl alcohol foam）
e　GDC（Guglielmi Detachable Coil）

7　微量金属の過剰症に関する組合せで**誤っている**のはどれか。

a　金――――――――――――――――――膜性腎症
b　亜　鉛――――――――――――――――味覚異常
c　ヨード――――――――――――――――甲状腺機能低下症
d　マンガン――――――――――――――パーキンソン症候群
e　アルミニウム――――――――――――骨軟化症

8　肺癌症例で嗄声を認めた時、TNM分類のT因子はどれか。

a　0
b　1
c　2
d　3
e　4

9　器官形成期は受精後どの時期か。

a　1～3週
b　1～8週
c　4～8週
d　6～10週
e　8～10週

10 妊娠に伴う生理的変化で正しいのはどれか。
a 予備呼気量は増加する。
b 機能的残気量は変化ない。
c 一回換気量は増加する。
d 腹式呼吸に傾く。
e 肺活量は増加する。

11 新生児の成熟兆候を示すのはどれか。
a 皮膚が薄い。
b うぶ毛が多い。
c 皮下脂肪が薄い。
d 足底のしわが多い。
e 耳介軟骨がやわらかい。

12 健康増進とプライマリヘルスケアについて、組合せで**誤っている**のはどれか。
a 健康日本21――――――――――――健康寿命の延長
b 健康増進法――――――――――――市町村保健センターの設置
c 生活習慣病予防――――――――――――行動変容
d プライマリヘルスケア――――――――――――安全な飲料水の供給
e ヘルスプロモーション――――――――――――健康を支援する環境づくり

13 医師免許の他に法的資格が必要なのはどれか。
a 産業医
b 遺伝子操作治療
c 精神障害者の任意入院の判定
d 異状死と思われる死体の検案
e 心音の停止が確認された胎児についての妊娠中絶

14 3歳0か月児のほとんどが到達している発達レベルはどれか。
a 三語文を復唱する。
b 1人で服を着る。
c 高い、低いがわかる。
d ○を模写する。
e スキップする。

15 正常分娩経過につき正しいのはどれか。
a 分娩開始直後の破水が適時破水である。
b 児頭第1回旋で大泉門が先進する。
c 骨盤濶部で矢状縫合は第2斜径に一致する。
d 子宮口全開大時に収縮輪は臍上部に達する。
e 初産婦の平均分娩時間は約8時間である。

16 各職種と役割との組合せで正しいのはどれか。**2つ選べ。**
a 社会福祉士――――――――――――家事援助
b 作業療法士――――――――――――自助具指導
c 保健師――――――――――――診断書の交付
d 歯科医師――――――――――――処方箋の交付
e 義肢装具士――――――――――――義足歩行訓練

17 我が国の医療保険制度について正しいのはどれか。
a 国民健康保険は被用者保険である。
b 国民健康保険は健康保険法に基づく。
c 医療保険の給付率はすべて同一である。
d 医療給付は原則として現金給付をとっている。
e 国民健康保険加入者における高齢者割合は他の医療保険に比べて高い。

18 正常成熟児の臍帯動脈血酸素分圧はどれか。
a 10～20 mmHg
b 20～30 mmHg
c 30～40 mmHg
d 40～50 mmHg
e 50～60 mmHg

19 許容濃度について正しいのはどれか。
a 労働安全衛生法で規定されている。
b 化学物質の有害性の量的比較に用いられる。
c 2種以上の物質が混在している場合には適用できない。
d 作業環境濃度が許容濃度を越えると事業主は処罰される。
e 有害物質に関する作業場の管理区分を定める濃度としても使用される。

20 正しいのはどれか。

a 医療保護入院は年々減少している。

b 精神科病床は全病床数の10分の１を占める。

c 精神疾患の外来で最も多いのは統合失調症である。

d 精神障害の労災認定数はここ10年間横ばいである。

e 精神疾患の入院受療率は悪性新生物の入院受療率より高い。

21 国際保健医療協力について正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a 世界保健機構<WHO>の本部はフランスにある。

b わが国の政府開発援助<ODA>への出資額は先進国の中では低水準である。

c わが国の二国間援助はアフリカ諸国に対するものが多い。

d 国際労働機関<ILO>は労働者の健康保護について勧告を行う。

e 独立行政法人国際協力機構<JICA>は日本人専門家の派遣を行う。

22 光化学オキシダントの主な物質はどれか。

a フロン

b オゾン

c 二酸化硫黄

d 浮遊粒子状物質

e ダイオキシン類

23 介護保険制度で正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a 市町村が認定する。

b 要介護度は２段階に分けられる。

c 主に要支援、要介護の２種類に分けられる。

d 35歳でも特定疾病により介護が受けられる。

e 60歳以上の被保険者は介護サービスが受けられる。

24 60歳の女性。冬の朝、自宅玄関前で倒れているところを家人が発見し救急隊を要請した。救急隊現着時、脈拍 35/分。収縮期血圧 60mmHg。であった。救命センター搬送直後に脈拍触知不能となり、直腸温25℃、心電図で心室細動を認めた。

処置で正しいのはどれか。

a アドレナリンを投与後、除細動を行った。

b 除細動を１回行い、アドレナリンを投与した 。

c 除細動を１回行い、胸骨圧迫を行いながら加温した。

d 除細動はせず、アドレナリンの投与を繰り返し行った。

e 除細動後、高度徐脈に対し経皮的体外ペーシングを行った。

25 呼吸中枢を刺激するのはどれか。

a 血液中酸素分圧の上昇

b 血液中一酸化炭素分圧の上昇

c 血液中二酸化炭素分圧の低下

d 脳脊髄液pHの低下

e 血液中Naイオン濃度の上昇

26 胸痛の持続時間が最も短いのはどれか。

a 気　胸

b 大動脈解離

c 急性心筋梗塞

d 労作性狭心症

e 冠攣縮性狭心症

27 概日リズムの形成に最も関係が深いのはどれか。

a 疑　核

b 室頂核

c 副神経核

d 視交叉上核

e 内側膝状体核

28 石綿肺（アスベスト肺）について正しいのはどれか。

a　管理３該当者の健康診断は離職後は行なわない。

b　拘束性換気障害を呈する。

c　胸部エックス線で上肺野の不整形陰影を呈す。

d　アスベストは遊離ケイ酸粉じんである。

e　胸膜中皮種は化学療法により治癒しやすい。

29 全身麻酔下で胃部分切除術を行った患者の術後管理として**誤っている**のはどれか。**２つ選べ。**

a　早期離床を促す。

b　術後数時間は酸素投与する。

c　術直後から食事を開始する。

d　弾性ストッキングを着用する。

e　抜糸まで連日抗菌薬を投与する。

30 介入研究に関して正しいのはどれか。

a　対照群と介入群の標本数は同一にする。

b　偽薬（プラセボ）群であることは、研究者が知っている方が望ましい。

c　介入により有害事象が発生したと判断した場合に、研究を中断できる。

d　無作為割り付けを行うために、カルテ番号の順に対照群と介入群を交互に割り付ける。

e　投与された薬が偽薬（プラセボ）であるかを、患者のみが知らない場合、二重盲検法という。

31 正しい組合せはどれか。

a　紅　斑――――――――――――――――――蕁麻疹

b　紫　斑――――――――――――――――――皮膚筋炎

c　結　節――――――――――――――――――扁平母斑

d　水　疱――――――――――――――――――粘液嚢腫

e　膨　疹――――――――――――――――――肥満細胞腫

32 膀胱について正しいのはどれか。

a　膀胱三角部は内胚葉からなる。

b　尿膜管は膀胱頸部に付着する。

c　成人の膀胱容量は約 800 m*l*である。

d　松かさ様膀胱は低圧膀胱患者に多く見られる。

e　膀胱尿管逆流症は高圧膀胱患者に多く見られる。

33 労働安全衛生法における定期健康診断の対象者で正しいのはどれか。

a　主　婦

b　中学教諭

c　大学院生

d　派遣労働者

e　農業従事者

34 85歳の女性。腸閉塞の診断で当院入院となった。骨盤部のCTを示す。

診断はどれか。

a　臍ヘルニア

b　鼠径ヘルニア

c　閉鎖孔ヘルニア

d　腹壁瘢痕ヘルニア

e　傍十二指腸ヘルニア

骨盤部のCT

35 正しいのはどれか。

a　奇静脈は腕頭静脈に流入する。

b　冠静脈洞は右心室に流入する。

c　左内胸動脈は左総頸動脈から分岐する。

d　大伏在静脈は動脈系と伴走する深静脈である。

e　右胃体網動脈は胃十二指腸動脈から分岐する。

36 薬剤と副作用の組合せで**誤っている**のはどれか。

a　ジゴキシン――――――――――――――徐　脈

b　甲状腺ホルモン――――――――――――浮　腫

c　抗精神病薬――――――――――――――悪性症候群

d　副腎皮質ステロイド――――――――――易感染性

e　HMGCoA還元酵素阻害薬 ――――――横紋筋融解症

37 バソプレシンについて正しいのはどれか。

a　脳下垂体前葉から放出される。

b　腎集合管の細胞内cGMPを増加させる。

c　腎集合管の水透過性を増加させる。

d　利尿作用がある。

e　血管平滑筋を弛緩させる。

38 正しいのはどれか。

a　右肺には大動脈溝がある。

b　右肺は２葉、左肺は３葉からなる。

c　胸膜腔内は陽圧に保たれ、肺を広げている。

d　左右の胸膜腔は肺門周囲でつながっている。

e　肺尖は鎖骨からは２～３cm 上方に突出している。

39 出生５時間後の新生児。在胎38週、1,950ｇ、Apgar スコア9点（1分）。
合併しやすいのはどれか。

a　敗血症

b　低血糖症

c　クレチン症

d　動脈管開存症

e　高ナトリウム血症

40 病態に自己抗体が関与しているのはどれか。

a　サラセミア

b　鉄芽球性貧血

c　寒冷凝集素症

d　血球貪食症候群

e　発作性夜間血色素尿症

41 62歳の男性。胸痛の精査のため入院となったが、入院翌日の昼食時に、突然意識不明となった。対応のために、急遽結成されたメンバーでチーム医療を行うことになった。**適切でない**対応はどれか。**２つ選べ。**

a　看護師もチームに含める。

b　若い医師はメンバーから外す。

c　緊急時は一人で安全確認を行う。

d　異なる業種間で診療情報を共有する。

e　速やかにチームリーダーを決定する。

42 ７か月の乳児。定期健康診断で受診した。体重8.6kg。39週、自然分娩で出生した。出生時体重2,950g、身長49cm。母乳栄養のみであった。５か月から離乳食を開始した。現在の食事は舌でつぶせる程度の硬さで、１日２回与えている。寝返りをするが、ハイハイはできない。好きなものに手を伸ばしてつかもうとする。顔に布をかけると、自分で取る。お座りができ、呼びかけると振り向く。三種混合ワクチン第１期、ポリオワクチン１回目の接種が終了している。Moro反射なし。
この乳児について正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a　ハイハイができないのは発達が遅れている。

b　Moro反射がないのは知能の遅れを示している。

c　離乳食の形態は妥当である。

d　BCGの接種を勧める。

e　断乳の指導をする。

43 62歳の女性。動悸と息切れを主訴に来院した。３か月前から家族に顔色不良を指摘されていた。１か月前から労作時に動悸と息切れを自覚し、徐々に増悪した。血液所見：赤血球 152万、Hb 6.9 g/dl、Ht 18%、網赤血球 28%、白血球 6700、血小板 32万。血清生化学所見：ハプトグロビン 10 mg/dl以下（基準 19 ～170）、総ビリルビン 3.1 mg/dl、間接ビリルビン 2.2 mg/dl、AST 48 IU/l、ALT 31 IU/l、LDH 623 IU/l（基準 176 ～353）。免疫学所見：直接Coombs試験陽性。
アレルギー反応のCoombs分類でこの疾患と同じ型に属するのはどれか。

a　気管支喘息

b　Goodpasture症候群

c　急性糸球体腎炎

d　接触性皮膚炎

e　過敏性肺臓炎

44 67歳の女性。２～３か月前より労作時の呼吸困難を自覚していた。歩行中に胸痛を訴えた後、意識消失し救急車で搬送された。来院時ショック状態であった。動脈血ガス分析値は、PaO_2 49.4 Torr、$PaCO_2$ 33.5 Torrであった。心電図検査では、Ⅱ、Ⅲ、aVF、V2-V6で陰性Ｔ波を認めた。心エコー図を示す（左：左室Ｍモード、右：左室短軸像、RV: 右室、LV: 左室）。

この患者に予想される検査所見はどれか。**２つ選べ。**

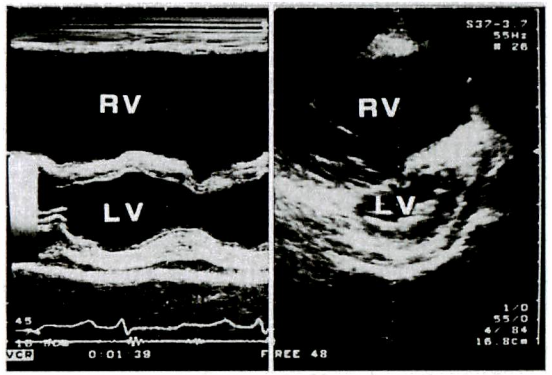
a　胸部エックス線写真――――――――――肺野血管陰影増強

b　胸部エックス線写真――――――――――胸水貯留

c　心臓カテーテル検査――――――――――中心静脈圧低下

d　胸部造影CT検査 ――――――――――胸部下行大動脈の解離

e　下肢造影CT検査 ――――――――――深部静脈血栓



心エコー図

45 18歳の男子。野球の練習中に顔面に硬式ボールが当たり受傷。眼球運動、眼底には異常を認めない。また歯芽に破折はないが開口制限および咬合異常を認める。

考えられないのはどれか。

a　眼窩底骨折

b　下顎骨体部骨折

c　LeFort Ⅰ型骨折

d　LeFort Ⅱ型骨折

e　下顎骨関節突起骨折

46 65歳の男性。自宅で鮮紅色の下血をきたし、救急車で搬送され来院した。意識は不穏状態である。身長 183 cm、体重 70 kg、脈拍 120/分、整。血圧 83/40 mmHg。皮膚は蒼白で冷たい。血液所見：赤血球 220 万、Hb 6.3 g/dl、Ht 22 %、白血球 8,700、血小板 10.8 万、PT 11.5 秒（基準対照 11.3）、APTT 32.3 秒（基準対照 32.2）、総蛋白 6.9 g/dl、アルブミン 4.0 g/dl。

この患者に適切な輸血はどれか。

a　自己血

b　濃厚血小板

c　赤血球濃厚液

d　新鮮凍結血漿

e　近親者からの新鮮血

47 23歳の男性Ａ、学生。国民健康保険に加入している。就職前に健康診断を受けることにした。最初にエイズ検査を受けるため、保健所を訪問した。次に、特に症状はないが、人間ドックで胃の内視鏡検査を受けた。その後、男性Ａは、会社Ｃに就職し、健康保険は社会保険になった。男性Ａは、職場の同僚の女性Ｄと結婚し、長男Ｅが生まれ、その際、正常分娩であった。長男Ｅが成長し、肢体不自由であると診断され補装具を使用することになった。

正しいのはどれか。

a　女性Ｄの出産費用は、保険の給付対象である。

b　男性Ａが受けた内視鏡検査費用は、保険の給付対象である。

c　長男Ｅが使用する補装具の購入費用の一部は市町村から支給される。

d　男性Ａが所持していた国民健康保険証は、厚生労働省が発行したものである。

e　男性Ａが受けたエイズ検査費用は、国民健康保険の一部負担金を男性Ａが保健所に支払う。

48 44歳の男性。20年前から糖尿病で通院していたが、血糖コントロールは不良であった。

糖尿病性網膜症で眼科に通院している。最近下肢の浮腫と倦怠感が悪化している。

身長 170cm、体重 85kg。脈拍 66/分。血圧 148/96 mmHg。

足背部に浮腫あり。眼瞼結膜貧血あり。尿蛋白（２＋）、尿糖（＋）。

空腹時血糖 180 mg/dl、総蛋白 5.5 g/dl、アルブミン 2.9 g/dl、

尿素窒素 48 mg/dl、クレアチニン 2.66 mg/dl、総コレステロール 320 mg/dl。

この症例に食事指導を行うことにした。

一日あたりの指示量で**誤っている**のはどれか。

a　食塩 6 g

b　蛋白質 50g

c　食物繊維 20g

d　総エネルギー 1,400kcal

e　コレステロール 300mg

49 28歳の初産婦。分娩開始10時間後の内診所見で子宮口は7 cm開大し、小泉門を2時、大泉門を8時の部位に触れた。正しいのはどれか。

a　不正軸進入
b　高在縦定位
c　低在横定位
d　第1前方後頭位
e　第2後方後頭位

50 28歳の初産婦。妊娠39週に陣痛発来し入院となった。7時間後に子宮口は6 cm開大し、無痛分娩を希望した。硬膜外鎮痛法を行うことになったがどのレベルをブロックすればよいか。

a　Th4 ～ Th7
b　Th7 ～ Th10
c　Th10 ～ L1
d　L1 ～ L5
e　S2 ～ S4

51 38歳の男性。ハンマーで鉄板を叩く作業中、右眼に何かが当たり来院した。右眼視力は0.01（矯正不能）。眼底は硝子体出血のため詳細不明である。細隙灯顕微鏡検査所見では、強膜に穿孔創を認めた。

診断に**適切でない**検査はどれか。

a　網膜電図検査
b　頭部単純CT
c　頭部単純MRI
d　眼部超音波検査
e　頭部エックス線単純撮影

52 51歳の男性。下肢の皮疹を主訴に来院。2週前に感冒様症状のため市販薬を内服した。1週前より下肢に皮疹が出現し次第に増えた。2日前より腹痛と足関節および膝関節の疼痛を認める。既往歴は特になし。皮疹は硝子圧法で消退しない。下肢の写真を示す。

考えられる疾患はどれか。

a　単純性紫斑
b　慢性色素性紫斑
c　Schonlein-Henoch紫斑病
d　高グロブリン血症性紫斑
e　アレルギー性肉芽腫性血管炎

下肢の写真

53 35歳の男性。不安と不眠を主訴に来院した。1年前に転勤し、その職場で上司から「こんな仕事もできないのか」、「無能なやつは帰れ」などと毎日のように言われ続けた。半年前から、翌日の出勤のことを考えると寝付けず、酒やかかりつけ医処方の睡眠薬に頼るようになった。次第に食欲が低下し、体重が激減した。出勤できないまま2週間が過ぎたため精神科診療所を初診。患者は休職を希望している。

外来治療にあたり最も念頭におくべき法律はどれか。

a　生活保護法
b　労働基準法
c　麻薬及び向精神薬取締法
d　医療法
e　介護保険法

54 48歳の女性。主婦。性交時出血を主訴に来院した。子宮の視診・内診にて、子宮頸部の右側にカリフラワー上の隆起性病変を認めた。右の子宮傍組織に浸潤を認めたが、骨盤骨までは達していなかった。尿路造影にて右の水腎症を認めた。病変部からの生検は、扁平上被癌の診断であった。肝機能、腎機能は基準値の範囲内であった。

適切な治療法はどれか。

a　単純子宮全摘術
b　単純子宮全摘術および右付属器切除
c　広汎子宮全摘術および両側付属器切除、リンパ節郭清
d　化学療法
e　化学放射線療法

55 64歳の男性。不整脈を指摘され来院した。自覚症状はない。体温36.5℃。脈拍42回/分、整。心音と呼吸音に異常を認めない。心電図を示す。

適切な治療法はどれか。

a　経過観察
b　ペースメーカー植込術
c　イソプロテレノール投与
d　カテーテルアブレーション
e　ICD（植え込み型除細動器）植込術

心電図

56 35歳の女性。4週間前から39.0℃の発熱を認め、近医で抗菌薬と解熱鎮痛薬を処方されたが、高熱が持続するため受診した。全身倦怠感以外の自覚症状はない。

身体所見：身長 164cm、体重 50kg。体温 38.5℃。脈拍 98/分。血圧 120/80 mmHg。咽頭：発赤なし。頸部：リンパ節腫脹なし。胸部：肺野は清、心尖部に収縮期雑音を聴取。腹部：平坦、軟。圧痛、自発痛なし。四肢：下腿浮腫なし。指先に痛みを伴う点状の発赤を認める。検査所見：血液検査：白血球 14,000、CRP 5.4 mg/dl。尿検査：蛋白（－）、糖（－）、潜血（＋）。胸部エックス線写真では明らかな異常所見を認めなかった。

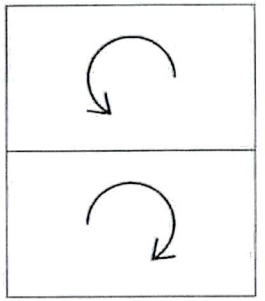
診断のために次に施行すべき検査はどれか。**3つ選べ。**

a　眼底検査
b　血液培養
c　心エコー検査
d　胸腹部造影CT検査
e　ガリウムシンチグラフィー

57 45歳の女性。3か月前より頭を動かした際にめまいがおきるようになったため来院した。頭位変換眼振検査を施行したところ、図のような所見を認めた。

病巣はどこか。

a　前半規管
b　後半規管
c　外側半規管
d　卵形嚢
e　球形嚢



頭位変換眼振検査所見

58 42歳の女性。会社の健康診断で脂質異常と肥満を指摘され、2次健康診断を勧められ来院した。

現病歴：生来健康。

既往歴、家族歴：特になし生活歴：主婦。タバコ10本/日、15年間。

月経歴：30日周期、出血量は特に多くない。

現　症：身長163cm、体重74kg。血圧 120/86 mmHg。腹囲90cm。

初診時の対応として**誤っている**ものはどれか。

a　禁煙外来を勧める。
b　血糖値を測定する。
c　高脂血症治療薬を投与する。
d　運動調査をする。
e　栄養指導を行う。

59 62歳の男性。慢性腎不全で外来通院している。全身倦怠感と動悸を主訴に来院した。来院時、意識は清明。両下腿に軽度浮腫を認める。体温36.5℃。脈拍80/分、整。血圧 140/75 mmHg。血液所見：赤血球 310万、Hb 9.5 g/dl、Ht 29%。血液生化学所見：総蛋白 6.0 g/dl、アルブミン 3.1 g/dl、尿素窒素 80 mg/dl、クレアチニン 8.5 mg/dl、尿酸 8.5 mg/dl、Na 135 mEq/l、K 6.0 mEq/l、Cl 100 mEq/l、Ca 7.9 mg/dl、P 6.0 mg/dl。動脈血ガス分析（自発呼吸、room air）：pH 7.30、$PaCO_2$ 38 mmHg、HCO_3^- 18.0 mEq/Lであった。

この患者に見られるのはどれか。**2つ選べ。**

a　アシデミアが見られる。

b　呼吸性代償がされている。

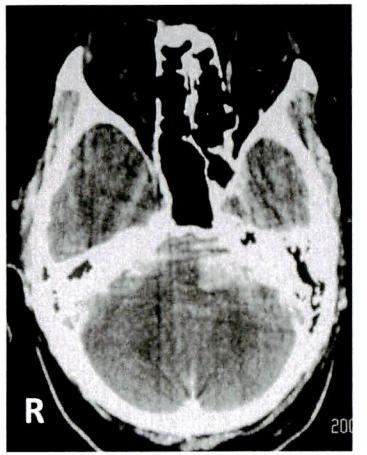
c　呼吸性アシドーシスが見られる。

d　アニオンギャップが開大している。

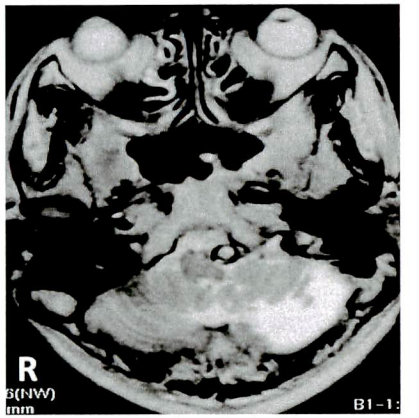
e　代謝性アルカローシスが見られる。

次の文を読み、60 ～62の問いに答えよ。

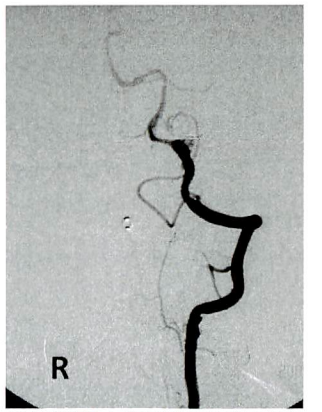
40歳の男性。生来健康。前日の夜10時まで、元気であったのを家人が確認している。朝7時に起きてこないため家人がみると、呼びかけにまったく反応せず。救急隊が５分後に到着時には心肺停止状態であり、蘇生にて心拍動と自発呼吸が再開した。救急車の中では痛み刺激ではらいのけるが開眼しない状態になり、来院した。来院時の意識は、呼名で開眼するレベル。他の神経学的所見として、左瞳孔の縮瞳、左瞼裂の狭小化、右片麻痺を認めた。緊急に頭部CTを施行した（図①）。撮影中に突然血圧が上昇し、心室性期外収縮の連発と心室細動の出現を認め、瞳孔散大となった。挿管チューブからは、泡沫状の分泌物の噴出が認められた。MRI T2強調画像（図②）、脳血管造影 左椎骨動脈正面像（図③）を示す。



頭部CT（図①）



MRI T2強調画像（図②）



脳血管造影 左椎骨動脈正面像（図③）

60 「救急車の中」あるいは「来院時」のJapan Coma Scaleで正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　II-10
b　II-20
c　II-30
d　III-100
e　III-200

61 本疾患で病変の反対側に出現する神経症状はどれか。

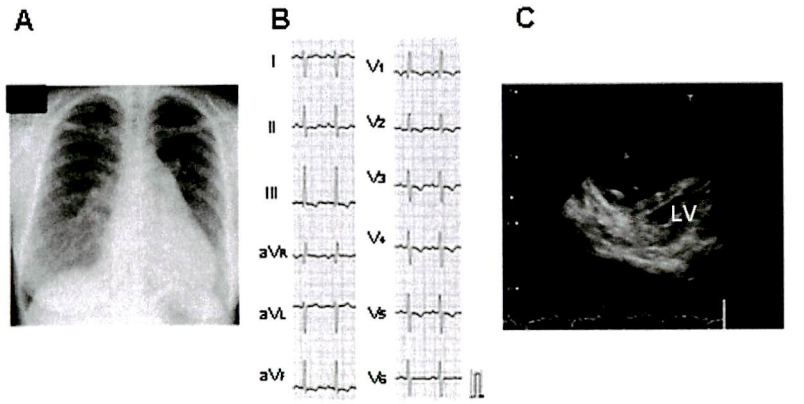
a　軟口蓋麻痺
b　顔面神経麻痺
c　咽頭反射消失
d　顔面の感覚解離
e　顔面を除く半身の感覚解離

62 この疾患の全身合併症として正しいのはどれか。**3つ選べ。**

a　心筋梗塞
b　心筋症
c　肺水腫
d　腎不全
e　肝不全

次の文を読み、63～65の問いに答えよ。

31歳の女性。3年前より労作時に息切れを感じていたが、放置していた。数か月前から階段を上るのがつらく、ときに眼前暗黒感を感ずることがあった。数週間前から全身倦怠感が徐々に強くなり、呼吸困難と下腿浮腫が増強したため入院となった。脈拍 100/分、整。血圧 88/66 mmHg。手足の冷感を感じた。T.Bil 1.5 mg/dl、クレアチニン 1.3 mg/dl、BNP 108 pg/ml（基準：18.4 pg/ml以下）。入院時の胸部エックス線と心電図、心エコー図（傍胸骨短軸像）を示す。



胸部エックス線　　心電図　　心エコー図（傍胸骨短軸像）

63 本例で**認められない**身体所見はどれか。

a 胸壁拍動
b 肝腫大
c 湿性ラ音
d hepatojugular reflux
e Ⅱ音の亢進

64 本例において現時点で**行うべきでない**検査はどれか。

a 頸動脈波の記録
b 肺血流シンチグラム
c 下肢静脈エコー
d 胸部造影CT
e トレッドミル運動負荷試験

65 本例においてスワンガンツカテーテルにより計測された血行動態指標はどれか。

a 平均肺動脈圧 58mmHg、肺動脈楔入圧 12mmHg、心係数 1.8 *l*/分/m^2
b 平均肺動脈圧 14mmHg、肺動脈楔入圧 30mmHg、心係数 3.0 *l*/分/m^2
c 平均肺動脈圧 14mmHg、肺動脈楔入圧 12mmHg、心係数 3.0 *l*/分/m^2
d 平均肺動脈圧 58mmHg、肺動脈楔入圧 30mmHg、心係数 1.8 *l*/分/m^2
e 平均肺動脈圧 14mmHg、肺動脈楔入圧 12mmHg、心係数 1.8 *l*/分/m^2

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

34歳の1回経産婦。妊娠16週5日に血糖管理目的で紹介され入院した。

現病歴：3年前に高血糖を指摘されたが、精密検査は受けていない。2か月前に無月経を主訴として自宅近くの診療所を受診し、妊娠7週と診断された。診療所で経過観察されていたが、12週時から尿糖強陽性（定性試験で3＋）が出現したため14週時に 75g 経口ブドウ糖負荷試験が施行された。負荷前値：110 mg/*dl*、2時間値：204 mg/*dl*であった。

既往歴：特記すべきことはなし。

月経歴：初経 11歳。月経周期 28日、整。持続5～6日。月経障害なし。

妊娠・分娩歴：25歳時に正常経腟分娩（妊娠 39週、3,790g）。

家族歴：母が糖尿病。

現症：意識は清明。身長 156cm、体重 76kg（妊娠前体重 68kg、BMI＝27.9）。体温 36.7℃。脈拍 88/分、整。血圧 136/86 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腿浮腫を認めない。

検査所見：尿所見：蛋白（－）、糖（2＋）、ケトン体（－）。血液所見：赤血球 305万、Hb 10.2 g/*dl*、Ht 31％、白血球 6,900、血小板 11万。血液生化学所見：空腹時血糖 122 mg/*dl*、HbA1c 6.8％、総蛋白 7.0 g/*dl*、アルブミン 4.2 g/*dl*、尿素窒素 16 mg/*dl*、クレアチニン 0.6 mg/*dl*、尿酸 7.8 mg/*dl*、総コレステロール 240 mg/*dl*、トリグリセライド 130 mg/*dl*、総ビリルビン 0.8 mg/*dl*、直接ビリルビン 0.5 mg/*dl*、AST 40 IU/*l*、ALT 48 IU/*l*、LDH 320 IU/*l*（基準 176～353）、ALP 270 IU/*l*（基準 115～359）。

66　この患者で正しいのはどれか。**3つ選べ。**

a　妊娠高血圧である。

b　妊娠糖尿病である。

c　糖尿病合併妊娠である。

d　肥満は本病態の危険因子となる。

e　家族歴は本病態の危険因子となる。

67　入院後の検査として**重要でない**のはどれか。

a　眼　底

b　胎児発育

c　凝固・線溶検査

d　血糖値の日内変動

e　内因性インスリン分泌能

68　その後の経過：入院後２週間、加療を行った時点でコントロールは良好となり、退院した。しかし、退院後は食事療法が遵守できず、インスリンの増量にも関わらず、外来にてコントロールは不良に経過した。その後妊娠28週４日に下腿浮腫と血圧上昇とを主訴に来院した。再入院時の脈拍 104/分、整。血圧 160/104 mmHg。尿蛋白 100 mg/dl。血液所見：赤血球 270万、Hb 9.0 g/dl、Ht 28%、白血球 9,200、血小板 9.0万。血液生化学所見：AST 480 IU/l、ALT 460 IU/l、LDH 700 IU/l（基準 176 ～353）。緊急帝王切開を行うこととした。

注意すべき母児の合併症はどれか。**3つ選べ。**

a　子癇発作

b　播種性血管内凝固

c　胎児肺低形成

d　新生児高カルシウム血症

e　新生児呼吸窮迫症候群

次の文章を読んで69 ～71の問いに答えよ。

55歳の女性。発熱を主訴に来院した。

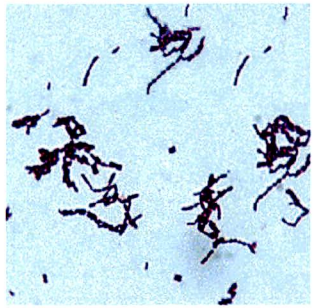
現病歴：２週間から38℃台の発熱が持続しており、近医で抗菌薬の投薬を受け、一度解熱したが、１週間から再び発熱し、倦怠感、食欲不振が増強したため大学病院を紹介され受診した。

既往歴：特記すべきことはない。

現　症：意識は清明。身長169 cm、体重75.3 kg。体温37.7 ℃。脈拍90/分、整。血圧124/65 mmHg。第３肋間胸骨左縁で 2/6度の拡張期逆流性雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。左手指に圧痛を伴う赤色の結節を数か所認める。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。肝・脾を触知しない。下肢浮腫なし。

検査所見：尿所見：蛋白1+、糖（-）、潜血1+、沈渣に赤血球10 ～20/1視野。血液所見：赤血球405万、Hb 11.4 g/dl、Ht 35 %、白血球 9,600、血小板 35万。血液生化学所見：総蛋白 7.5 g/dl、アルブミン 3.9 g/dl、尿素窒素 19 mg/dl、クレアチニン 0.85 mg/dl、総ビリルビン 1.0 mg/dl、AST 20 IU/l、ALT 15 IU/l、CRP 2.9 mg/dl。心電図と胸部エックス線写真には異常を認めない。経胸壁心エコー検査で弁の疣贅を認めない。左手指の写真と血液培養のグラム染色写真を示す。

左手指の写真



血液培養のグラム染色写真

69　本症例で見られるのはどれか。

a　心不全

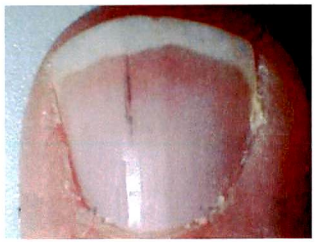
b　敗血症

c　腎不全

d　呼吸不全

e　播種性血管内凝固（DIC）

70　本疾患の所見として**適切でない**のはどれか。**２つ選べ**。

a


b

c

d

e

71　初期治療として適切なのはどれか。

a　エリスロマイシン静注

b　バンコマイシン静注

c　ペニシリンG大量静注

d　ステロイドパルス療法

e　ヘパリン持続静注